

1月13日 13:30 – 15:30

ベトナムにおける道教

大西和彦（ベトナム宗教研究者）

ベトナムにおける道教の特徴は、①中国の道教を出来るだけ正確にコピーしようと努めた、②仙人になる過程が簡単である、③家伝である、④現在の実践者は正一教道士の末裔である、⑤雷の威力を駆使する「神霄雷法」を奉ずるテイファップ（*thầy pháp*:法師）が多い、⑥変化した全真教も伝わり、呂洞賓信仰や扶鸞を行なうところもある、とまとめることができる。またその伝播の要因として、中国の道士が祭礼や薬剤等に必要な生薬原料、真珠等を求めてベトナムに渡来したこと、および福建人がベトナムに移民し、その中に多くの道士が含まれていたことの2つが挙げられる。

「聖母道」（ダオマウ:Đạo Mẫu）は、道教の影響を受けている民間信仰の1つである。中核となる女神は、マウ（*Mẫu*:母）、タインマウ（*Thánh Mẫu*:聖母）、コンチュア（*Công chúa*:公主）等と称され天府の上天聖母、地府の地仙聖母、水府の水宮聖母、そして岳府の上岸聖母があり、また玉皇上帝の娘とされる柳杏聖母は上天聖母、地仙聖母、上岸聖母の化身ともされる。聖母道はドン（*Đông*:童）と呼ばれる男女のシャーマンによって実践され、その儀礼ではチュビ（*Chu vị*:諸位）と総称される神々がシャーマンに憑依し、舞踏・託宣を行うレンドン（*Lên Đông*:跳童）が行われる。

ベトナムの新興宗教としては中・南部のカオダイ教、中部の天仙聖教がある。前者の主神カオダイ（高台）は玉皇上帝であり、そこで行われる自動書記「機筆」は、道教の影響を受けたシャーマニズムの一実践方法である扶鸞に倣ったものである。後者はチャム族の信仰の影響を受けた聖母道を主体とする。

ベトナムにおける道教は、ベトナム人の生活に深く入り込み、それは年中行事にもあらわれている。またその実践を通してベトナム人の「本音」をみることができる。

（記録：前川佳世子）